

承認	議長	副議長	事務局長	次長	合議	担当
						

様式第 1 号

2024 年 10 月 8 日

真庭市議会
議長 小田康文 様

真庭市議会議員 伊藤義則 

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行うことについて届けますので、承認願います。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先 甲府市 全国過疎問題シンポジウム
10/24 甲府市YCC県民文化ホール
宿泊 ドーミーイン甲府
10/25 甲府市

3 内 容
過疎地域の様々な取り組みを知り、更なる議論を
深め参加者相互の交流を図るため

4 行 程 別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



参加者 中尾哲雄 古南源二 伊藤義則 福島一則

行程表		本庁	岡山駅	新横浜	八王子	甲府	会場
10月24日	交通	自家用車	JR	JR	JR	JR	TX
	時刻	4:30	6:01	8:56	9:07	9:54	
					10:09	11:14	11:30
10月25日	交通	甲府駅	八王子	新横浜	岡山駅	本庁	
	交通	JR	JR	JR	JR	自家用車	
	時刻	17:36	18:30				
			18:38	19:24	22:56	24:30	

宿泊先 ドーミーイン甲府

住所： 山梨県甲府市中央1－14－3

電話： 055-226-5489

報 告 書

2024年11月6日

真庭市議会議長 小田康文 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 伊藤義則



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会 要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 2024年10月24日（午前・ <u>午後</u> ）1時00分 至 2024年10月25日（午前・ <u>午後</u> ）5時00分
2 場 所	10月24日甲府市YCC県民文化ホール 10月25日山梨市
3 用 件	10月24日ニッセイ基礎研究所 天野馨南子氏 基調講演 「統計データが示す人口の未来の作り方」 パネルディスカッション「地域で生きる～」 10月25日午前 優良事例発表会、午後 山梨市視察
4 概 要	参加者 福島一則、古南源二、伊藤義則



「統計データが示す人口の未来の作り方」

1. 「なぜ過疎が進むのか」原因アプローチから逃げずに解決を導く。

- 合計特殊出生率が高いエリアほど少子化していないとは言えない。岩手県のように出生率が高いエリアほど出生数が減少している。
- 社会減エリアでは男性より女性が減っている。
- 社会減エリアから減少している人口は、**20代前半の就職期人口に集中**している。
- 若い女性が去り行く社会減エリアに人口の未来はない。
- 人口の未来は「令和時代の女性に選ばれる雇用」にある。**
- 2013-23年の10年間で最も少子化しなかったのは1位東京都、2位大阪府だった。なぜか。
- 都市部では地方からの未婚女性の転出超過だけで出生率は上昇する。**子育て支援等の「既婚者支援対策」とは無関係に上昇した。**
- コロナ前の10年間、社会減37エリア（47都道府県中）平均で男性の1.3倍の女性が減っている。男性は多く出るが戻りやすい、**女性は男性より少なく出るが一度出ると地元に戻らない傾向が強い。**
- 社会減エリアは男性より女性が減少し、社会増エリアは男性より女性が増加ことが特徴。**女性に強いエリアは過疎化しない。**

2. **地域少子化対策（＝過疎化対策）が「雇用問題」であること理解し動く。そんなエリアが生き残る。**

- 人口の未来は「令和時代の女性に選ばれる雇用」にある。
- えるぼし認定企業（女性の活躍を推進している企業）の48%が東京に**集中している。
- 東京都の企業は、**女性採用の努力が突き抜けている。**
- 共働き世帯（2023年）71%の現在、男女ともに経済的自立を保ちつつ支え合える社会に変わらなくては日本の未婚化＝人口減は止まらない。

3. 採用改革が女性定着の一丁目一番地である。東京圏、大阪、福岡は女性採用競争力が高いが他のエリアは逃している。その差は。

- 業種・職種に関係なく**IT化、DXを推進し男女比を同じくする。**

○賃金格差を無くする努力をする。

○IT 化は情報通信業・製造業が進んでおり、在宅勤務制度は高い評価を受けている。また、テレワークは少子化対策になることが明示された。

東京都の 18 歳から 34 歳までの在勤者は、結婚・子育て望ましい制度の筆頭に「**テレワーク**」を選択している。(61%)

○地方では 20 歳の女性を残すために、行政の仕事を作る。

10月25日(金)山梨市花かげホール

過疎地域持続的発展優良事例発表会

① 秋田県 NPO 法人 南外さいかい市

住民有志による運営協議会を活動主体として、公設民営のミニスーパーマーケット「南外さいかい市」を始動させた。常に改善し自分たちのことは自分で行う。

② 鹿児島県 高隈地区コミュニティ協議会

若手不在で支え合い・助け合いによる高齢者の生活支援体制の仕組みを 60 回のワークショップを行いながら作った。

③ 北海道 保育園留学推進協議会

保育園の一時預かり事業、遊休施設を利用した移住体験等を「保育園留学」としてパッケージ化した。そのためにオンライン診療も導入した。

④ 岡山県 平川村定住推進協議会

地域の特産品のぶどう・トマトを栽培し、定住・就農を希望する方とのマッチングを図り、農地や居住の紹介・斡旋を行い地域を維持した。

視察①室伏ワイナリー

ワイナリーといえば勝沼だが、山梨市で中規模ながらブドウ栽培・ワイン醸造を通して山梨の農業を支えたいという理念で行っている。

②(株)トプテック

廃校を利用してドローンの開発・製造、ドローンスクールを行っている。ぶどうの夜間盗難に一役買って成果を出している。

報 告 書

令和 6 年 10 月 31 日

報告者 真庭市議会議員 氏名 古南 源二 

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 令和6年 10月24日 (午前・ 午後) 3時15 至 令和6年 10月26日 (午前・ 午後) 0時35分
2	場 所	山梨県甲府市寿町26-1山梨県立県民文化ホール 山梨県山梨市ない花かげホール
3	用 件	10月25日：天野馨南子氏の「データが示す人口の未来の作り方」聴講 10月26日：過疎地域持続的発展の事例発表会他。
4	概 要	参加者：古南源二、伊藤義則、福島一則以上3名

内容：総務大臣代理等来賓あいさつ「図1」「図2」に続き令和6年度の総務大臣表彰4団体、全国過疎地域連盟会長賞4団体の優良事業表彰に続き天野馨南子氏（株式会社ニッセイ基礎研究所生活研究部人口動態シニアリサーチャー）から「統計データが示す人口の未来の作り方」と題して基調講演が行われた。

天野氏は講演で出生率に関して、未婚女性の転出超過（社会減）だけで分母が下がり自動的に出生率が上がり、子育て支援などの既婚者支援策とは無関係に数値は上昇



する。男性は一度都会に出ても戻りやすいが女性は一度出るといろいろなものに看過されやすく戻らない傾向が強い。社会減のエリアは男性より女性が減少することが特徴であり、人口増加エリアは男性より女性が増加することが特徴である。

無意識のまま男性誘致に励んでいないか。女性に強いエリアのほうが過疎化しない。減少地域では、首都圏では100%電子媒体でのエントリーに対し紙でエントリーシートの提出とか、女性ロールモデルが出てこないとか、高齢男性が面接に出てくるとか就職においても女性に不利なことが多くみられている。過疎エリアの自治体は、少子化対策は雇用対策ゆえに健康福祉部案件ではない。応援の角度を変える必要がある。

鳥取大学地域学教授筒井一伸氏をコーディネーターにパネリストには、石田万梨奈氏：秋田県五城目末に移住し、秋田市内で人材開発、キャリア支援、などで活躍。大岡千紘氏：和歌山市生まれ、地域おこし協力隊員として愛知県大栄町に移住、地域の鉱物セリサイトから化粧品を開発し町づくりに生かしている。近藤健斗氏：都留市生まれ、ドローン配送サービスの開発をしている。深山光信氏：曹洞宗常幸院住職、廃校を利用したキャンプ、地域情報誌や手作り地図の発行を行い地域活性化につながる先進的な取り組みを行う五条が丘活性化推進協議会前会長。を迎えて活動状況や地域づくりの意気込みなどを聞いた。

26日 山梨市花かげホールに移動して、近畿大学総合社会学部講師野田満氏をコーディネーターに、パネリストには昨日優良表彰された4名がついた。

秋田県大仙市で降雪民営のミニスーパーマーケットを開設運営している（NPO法人南外さいかい市）。

鹿児島県鹿屋市で地域活性化のための

「図1」



「図2」



活動を持続させながら「支えあい・助け合い」による高齢者の支援体制の仕組みづくり、関係人口増、地域資源を生かした観光造成に取り組む（高隈地区コミュニティ協議会）。

北海道厚沢部町1～3週間程度の保育園留学を通して子育て家族とともにワーケーションを促進し超長期的な関係人口の創出と地域活性化を目指している（保育園留学推進協議会）。

岡山県高梁市で特産品のトマト、ブドウを栽培する移住者に農地や住居とのマッチングを図り産地を維持し定住を促し地域活性化を図っている（平川村定住促進協議会）などの報告があった。

「図3」

現地視察では、移住者も携わる小さな室伏ワイン工場を見学。「図3」の正面の細長いタンクにはワインボトル10,000本分が入る。そのタンクは6本あった。1本2000円で販売すれば1,200万円ほどになる。



廃校を利用したドローンの製造やドローン教室、ドローンによる配送実験を行って

いる株式会社トプテックを見学した1機8万円程度から1000万円クラスまでの各機種が展示されており、デモフライト「図4」も見学した。

「図4」



行程表

行き 出発3：15自家用車→6：01岡山発新幹線→甲府駅着

帰り 17：48甲府駅発→岡山駅着22：56→自家用車帰着0：30

出会った人



グリーンエコー笠形
～こいのぼりの大空遊泳～



兵庫県・神河町

総務課 課長補佐

きしくち

岸 口

とおる

徹



カーミン

〒679-3116

兵庫県神崎郡神河町寺前64番地

TEL 0790-34-0001 FAX 0790-34-0691

E-mail

宝塚市 夢をさがしに、宝塚。

宝塚市議会議員

マンション管理士

建築施工管理技士

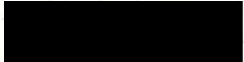
個人情報保護士



おだ たかこ

織田

貴子



新城市議会議員

自由民主党



村田 康助

MURATA

KOUSUKE



鳥取県輝く鳥取創造本部
中山間・地域振興局長
兼中山間振興統括本部長

矢吹 隆

〒680-8570

鳥取市東町一丁目220番地

TEL (0857) 26-7126

FAX (0857) 26-8742

E-mail



再生紙使用

松葉がに



浜田市長 久保田 章市

Mayor KUBOTA SHOICHI



〒697-8501 鳥取県浜田市陵町1番地

TEL (0855) 22-2612(代) FAX (0855) 22-3091

E-mail: mayor@city.hamada.lg.jp



日本遺産 石見神楽



山陰浜田港 のどぐろ



海洋館アクアス

近畿大学

KINDAI UNIVERSITY

総合社会学部 総合社会学科

環境・まちづくり系専攻



上越市議会

副議長 こんどう

彰浩

しょうじ

講師

野田 満

博士(工学)

〒577-8502 大阪府東大阪市小若江 3-4-1-G-4C

06-6721-2332 (内線 3242)

報 告 書

令和6年11月8日

真庭市議会議長 小 田 康 文 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 福 島 一 則



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自令和6年10月24日（午前・午後）3時30分 至令和6年10月26日（午前・午後）00時20分
2	場 所	YCC県民文化ホール ----- パネルディスカッション ベルクラシック甲府 ----- 山梨市花がけホール -----
3	用 件	全国過疎問題シンポジウムin山梨 天野馨南子氏基調講演 ----- 地域で生きる～暮らしを紡ぐ強さと豊かさの共創～ パネルディスカッション ----- 過疎地域持続的発展優良事例発表会 ----- 視察
4	概 要	参加者 福島一則、古南源二、伊藤義則 3名 ----- ----- ----- ----- -----

報告、

優良事業表彰式に続いて天野馨南子氏の（統計データが示す人口の未来の作り方）と題して基調講演が行なわれた。

未婚女性の転出超過だけでは分母が下がり、出生率が上がり、子育て支援、既婚者支援策などとは無関係に数値は上がる。

男性は都会に就職しても帰郷しやすいが、女性が出ると色々な事情により帰郷はしにくくなる傾向である。

過疎自治体の少子化問題は雇用対策が必要である為に健康福祉とは別に支援策を考える必要がある。

パネルディスカッションにおいては

石田万梨奈氏から

東京から移住して、3年間、地域おこし協力隊として活動し、女性起業支援、移住定住支援などに従事し、後に地元企業の新規事業やキャリア支援事業の立ち上げて若者のメンターなどを担い。生きられる地域、組織作り、組織開発、人材開発、キャリア支援、協力隊制度活用支援などの事の紹介があった

大岡千紘氏から

地域おこし協力隊として移住して、日本で唯一採掘される、化粧品原料セリサイト（絹雲母）と出会い、その後化粧品開発に取り組み会社を設立し化粧品ブランドを立ち上げ観光まちづくりに取り込んでいる。

近藤健斗氏から

ドローンによる配送サービスなどの前提社会の実現を目指している。

深山光信氏から

廃校舎を活用してイベントや校庭でのキャンプの実施、地域の情報を載せた地図など作りなど、地域の資源や施設などを活用した取り組みをした様々な活動を通じて地域リーダーの育成をしている

名刺交換会にて

名刺交換しながら色々な意見、過疎についての話をした。

25日山梨市花かげホールにて

近畿大学の野田満氏をコーディネーターとして4名の優良事例発表があり、秋田県大仙市、NPO法人南外さいかい市

地元の唯一のスーパーマーケットの廃業で買い物に苦労している高齢者を支援しようと、日用品雑貨等を店舗や移動販売車による、巡回販売、高齢者の

見守り、（保健師が同乗して）健康相談の実施、空き家を改修して菓子や漬物など製造し地域のイベントなどで販売している。
高齢者向けの昼食サロンや、地元の中学生とのコラボ（地域での物販スペースの合同運営）など民間交流の機会も創出している。

鹿児島県鹿屋市、高隈地区コミュニティ協議会

地域活性化のための活動による（支えあい。助け合い）による高齢者等の生活支援体制の仕組みづくり、地域資源等を生かした観光造成によるツアー交流人口、関係人口の増加を目指し財源確保に取り組んでいる。

北海道厚沢部町、保育園留学推進協議会

一時預かり保育園の事業、移住体験住宅などの遊休施設、収穫体験など出来る保育園留学として、町と連携（民間企業）して受入窓口をシステム化し全国から保育園留学したい子育て家族を1週間から3週間受け入れて、長期的な関係人口創出と地域活性化を図っている。

岡山県高梁市平川村、平川村定住推進協議会

地域の特産品（ぶどう、トマト等）栽培し、定住、就農を希望する人と地域とのマッチングを図り、地域の農地や住居等紹介。斡旋など行い産地の維持を図るとともに地域活性化を図っている。

以上4団体から体験等々の報告があった。

現地視察

地元のぶどうを使った移住者等も携わるワイン工場の視察
廃校舎でドローンの製造、組み立て、免許の講習、
配送実験を行なっている会社（トプテック）視察した

感想

全国同過疎について同じような問題を解決するためには、各自治体の思い切った支援策を取らなければいくら言葉で言ってもダメだ。

どの自治体も同じ様な農林業が多い、

農林業で生活できるような仕組みを作らなければならない

小、中、高迄の支援と地元企業に就職支援等を行わなければならない。

どの様な政策、取組をしても一時的には（補助金等）支援しても長期的に生活できる取り組みを作らなければ補助金が無くても維持できるシステムを作らなければ、補助金等が無くなれば終わりになる